

基地統廃合粉碎、ネームプレート拒否、10・10三里塚に総決起

事務分科会を3回定期委員会

新役員体制を確立



84. 8. 13

No. 1715

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五〇六（公衆）〇四七二二二七二〇七



動労千葉事務分科会は、八月八日、動力車会館において、第三回定期委員会を開催しました。今定期委員会は、一九四九年の「定員法」以来の大量首切りを狙った三本柱（一時帰休・退職強要・出向）攻撃や、国鉄再建監理委員会による「分割・民営」攻撃の中で、また千葉局における「60・3」にむけた成田・蘇我の基地統廃合攻撃に対して事務分科の組織強化と団結をうちかためるものとして大成功のうちにかちとられた。

各支部連携を強めて闘おう

—— 斉藤会長あいさつ ——

委員会は、清水分科副会長の司会のもとに進められ、はじめに斉藤功会長より「昨年の定期委員会以降をみても、オフィースコンピュータの導入あるいは佐倉客貨車区の廃止等の合理化攻撃が進み、職場をめぐる環境もめまぐるしくうつりかわっている。今後動乗勤制度の一方的改悪等なかで、現場の事務係への負担が増している。各支部の連携のもと、よりよい職場環境にしていくためにも団結をうちかためよう」とのあいさつがされた。

つづいて、動労千葉本部より参加された山口副委員長と篠塚特別執行委員より代表して山口副委員長より現在の国鉄をめぐる状況について、とりわけ「分割・民営化」と「過員」問題での三本柱の攻撃に動労千葉としてどう闘っていくのかについてあいさつがされた。また、当局と動労「本部」革マルの結託した成田廃止と「効率化」を口実とした蘇我廃止は、事務係の削減に直結していること、さらに、検修合理化や運修係の営業系統への配転「60・3」に全体でとり組むこと、九月の第九回定期大会を成功させようとの訴えがあった。

活発な討論で闘う方針を確立

この後、三代川副会長より活動方針（案）、大鐘事務長より会計報告が各々提案され質疑に入った。

質疑はおもに基地統廃合と京葉線開業問題について出され、山口副委員長より国鉄本社の動向、動労「本部」の動きを含め答弁があった。

昨年二月の事務係の要員見直し合理化以来の攻撃になるであろう基地統廃合問題を事務分科も先頭で闘わなければならない。

質疑ののち、三代川副会長より当面の闘いについて提起があり、分科会の一層の強化を基礎に「ネームプレート拒否」や「10・10三里塚現地闘争への決起」について確認した。

最後に役選を行い、大鐘和夫新会長をはじめとする新役員を選出し、常任委員・大会代議員を確

認した。そして、事務分科結成以来会長を務められ、今回任務を終えられた斉藤前会長より退任のあいさつをうけ、大鐘新会長の団結ガンパローで委員会は終了した。

その後、親睦と交流をかねて懇親会を開催し、交流を深めていった。

事務分科は、四〇名たらずの少数分科ですが、動労千葉の一翼を担い、共に闘い抜く決意です。選出された新役員は次のとおりです。

会長	大鐘和夫	43	千葉
副会長	田村武夫	42	蘇我
事務長	清水匠	29	新小岩
会計監査	小柴光	27	幕張
常任委員	伊藤隆	29	津田沼
	斉藤滋	29	津田沼
	鈴木義	36	津田沼
	中台高	25	幕張
	浦野晃	28	千葉
	栗原惣一郎	39	木更津
	大川原洋	41	館山
	高梨由一	22	勝浦
	室岡孝志	27	佐倉
	掛札圭一	26	成田

